

初修者ガイダンス 「教職課程履修にあたって(スポーツ健康学部)」

1. はじめに

ご入学おめでとうございます。これからは、4年間の大学生活をどのように過ごすか、そして「将来、どのような職業につきたいのか」についても考えていかねばなりません。4年後の自分を見据えて、学び・課外活動などのキャンパスライフや、自分の時間を充実させていきたいと願っています。そこで、「将来、どのような職業につきたいのか」を考えていく一つの選択肢として、スポーツ健康学部(以下、スポ健)では、中学校及び高等学校「保健体育」教員免許状(第一種)を取得することが可能です。実際にこれまで、多くのスポ健出身の先輩達が全国の公私立中学・高校に勤めています。「教職」というのは、「子どものため」という明確な目的のもとで真に「やりがい」のある職業です。一方で、『教職・資格課程履修要綱』の冒頭にも「・・・必要とされる単位数が非常に多く、どの授業も総じて厳しいため、主体的な履修計画をもって臨まないと、単位修得に振り回されるばかりの4年間となってしまう可能性がある・・・またもう一つは、免許状の取得には教育実習・介護等体験が必要ですが、その短いとはいえ人間の生に直接関わる時間に責任を負いきれることが最低限の履修条件となることです・・・」と書かれてあるように、免許取得は「公教育」という国家的課題に携わる資格を有するというものですから、相当の意欲と覚悟を必要とします。

2. スポ健における保健体育免許取得の心構え

(1) 「とりあえず資格が取れるものは(なんでも)取っておこう！」や、「周りの人(家族・恩師・先輩など)に言われて・・・」「友達が取るから・・・」では、履修継続意欲に限界が来ます。

【理由1】取得しなければならぬ単位数だけでなく、ガイダンス、体験・実習活動、提出物、宿題など授業以外の時間を使って行うことも多く、教職履修をしない学生より、時間・費用・労力などを要します。

【理由2】現在では教員免許更新制が導入され、10年ごとの更新講習を受けなければ免許を失効してしまうため、教職に就くという現実がないと免許取得は無意味となる。

(2) 免許取得理由が「部活の指導がしたい」は筋違い。学校ではすべての生徒に対する「授業」こそが最も大切であり、保健体育科の教員は、健康状態、精神状態、運動・スポーツの好き嫌い、得意・不得意、体力の有無など様々な状況にある生徒に対して、分け隔てなく運動・スポーツの魅力や健康の意義を伝えていくことが本来の仕事です。「部活動」は教育課程外にあり、教員の役割は好きなスポーツの指導を行うだけではありません。

ともかく、①「保健体育の教師になりたい」→②「だから、4年間で一種免許を取る(＋大学院で専修免許の取得も可)」→③「そして、教員採用試験を受けて合格する」、この順番以外にはなく、そのためにキチキチと計画立てて手順を踏んでいくことで達成します。